

東北中央自動車道相馬・尾花沢線関係
予備調査報告書(2)

1 9 9 9

東北中央自動車道相馬・尾花沢線関係

予備調査報告書(2)

平成11年3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

序

本書は、財団法人山形県埋蔵文化財センターが調査を実施した、東北中央自動車道相馬・尾花沢線（上山～東根間）にかかる予備調査の成果を概報としてまとめたものです。

高速道路は、上山市南部から東根市の北部まで、山形盆地の中央部を縦貫するように建設されます。予備調査は、山形市南西部の南山形、本沢地区の田園地帯に所在する石田遺跡外11遺跡と天童市最南部に位置する影沢北遺跡の13遺跡について行ったものです。

この度の調査は、東北中央道相馬・尾花沢線建設事業に伴い、今後の建設事業計画と緊急発掘調査計画などの調整に資することを目的に実施しました。

調査では、萩原遺跡や馬洗場B遺跡において古墳時代の住居跡が見つかったのを始め、古墳時代から奈良・平安時代の多くの遺跡が確認されました。

埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産といえます。この祖先から伝えられた文化財を大切に保護するとともに、祖先の足跡を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちの重要な責務と考えます。その意味で、本書が文化財保護活動の啓発・普及、学術研究、教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査においてご協力いただいた関係各位に心から感謝申し上げます。

平成11年3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター
理事長 木場清耕

例 言

- 1 本書は、平成10年度の東北中央自動車道相馬・尾花沢線建設事業に係る服部遺跡外の予備調査の報告書である。
- 2 調査は、日本道路公団東北支社の委託を受け、財団法人山形県埋蔵文化財センターが実地した。
- 3 調査要項は下記の通りである。

調査主体 財団法人山形県埋蔵文化財センター
 受託期間 平成10年4月1日～平成11年3月31日
 調査総括 調査第一課長 佐藤 庄一
 主任調査研究員 佐藤 正俊

遺跡名	遺跡 No.	所在地	現地調査	調査担当者
石 田	No.82	山形市大字谷柏字石田	4/9～5/8	調査研究員 鈴木 徹
谷 柏 J	No.84	山形市大字谷柏		調査研究員 斎藤也寸志
萩 原	No.101	山形市大字長谷堂字萩原		調査研究員 斎藤 主税
百 目 鬼	No.113	山形市大字百目鬼		調 査 員 志田 純子
樋 渡	平成2年度登録	山形市大字富神字樋渡		調 査 員 須賀井明子
服 部	No.156	山形市大字中野字服部	11/4～11/30	
藤 治屋敷	平成2年度登録	山形市大字中野字藤治屋敷		
馬 洗場 B	平成2年度登録	山形市大字中野字馬洗場		
三 条 ノ 目	平成10年度登録	山形市大字渋江字三条		
志 戸 田 縄	平成10年度登録	山形市大字陣場字志戸田縄	9/7～9/11	調査研究員 氏家 信行
中 道 南	平成10年度登録	山形市飯塚町字中道南	10/27～11/13	調査研究員 伊藤 元
熊 ノ 木	平成10年度登録	山形市大字陣場新田字熊ノ木		
影 沢 北	平成2年度登録	天童市大字高揃字松葉	7/27～7/31	調査研究員 斎藤 健 調査研究員 犬飼 透 調 査 員 大泉寿太郎

- 4 本書の作成・執筆は、鈴木徹・斎藤也寸志・志田純子・氏家信行・斎藤健が担当した。編集は丸山晶子・森谷昌央・志田純子が担当し、全体については佐藤庄一が監修した。
- 5 出土遺物、調査記録類については、財団法人山形県埋蔵文化財センターが一括保管している。

目 次

I 調査の経緯	
1 調査に至る経過	1
2 調査の経過と方法	2
II 遺跡の立地と環境	4
III 調査の概要	
《山形南地区》	
1 石田遺跡	8
2 谷柏J遺跡	10
3 萩原遺跡	12
4 百日鬼遺跡	14
5 樋渡遺跡	16
《山形中央地区》	
6 中道南遺跡	18
7 志戸田縄遺跡	20
8 熊ノ木遺跡	22
《山形北地区》	
9 服部遺跡	24
10 藤治屋敷遺跡	25
11 馬洗場B遺跡	28
12 三条ノ目遺跡	30
《天童地区》	
13 影沢北遺跡	32
IV 調査のまとめ	34

表・挿 図

表-1 予備調査作業工程表	3
表-2 平成10年度予備調査結果一覧	36
第1図 山形南地区遺跡位置図	5
第2図 山形中央地区遺跡位置図	6
第3図 山形北・天童地区遺跡位置図	7
第4図 石田遺跡調査概要図	9

第5図 谷柏J遺跡調査概要図	11
第6図 萩原遺跡調査概要図	13
第7図 百日鬼遺跡調査概要図	15
第8図 樋渡遺跡調査概要図	17
第9図 中道南遺跡調査概要図	19
第10図 志戸田縄遺跡調査概要図	21
第11図 熊ノ木遺跡調査概要図	23
第12図 服部遺跡・藤治屋敷遺跡調査概要図	26
第13図 馬洗場B遺跡調査概要図	29
第14図 三条ノ目遺跡調査概要図	31
第15図 影沢北遺跡調査概要図	33

I 調査の経緯

1 調査に至る経過

東北中央自動車道相馬・尾花沢線の建設事業計画は、平成2年度に県土木事業の上山～東根間都市計画道路整備事業として計画され、その後国幹審より高速道路整備路線計画が打ち出され平成5年度には施行命令が発令され、平成8年度から本格的に事業が開始された。

この間、山形県教育委員会では山形県土木部等の関係諸機関と協議を図りながら、平成2年度から埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の分布調査を実施している。その結果、上山～東根間には周知の遺跡17箇所に加え遺跡可能性地16箇所の、合わせて33箇所が路線内に位置していることが明らかになった。

これらの調査結果に基づいて、埋蔵文化財の取り扱いについて山形県教育委員会が事業主体である日本道路公団と協議を行った結果、道路建設工事の着手前、路線内遺跡についての予備調査を実施し、その後本発掘調査を計画的に進めることで協議が図られ、財団法人山形県埋蔵文化財センターが日本道路公団の委託を受けて、平成9年度から予備調査を開始している。

予備調査は、山形県教育委員会が実施する遺跡の詳細分布調査によって記録保存が確定した遺跡内の範囲について、緊急発掘調査の一環としてトレンチ掘り等によって行う調査である。この調査によって、次年度以降の発掘調査に必要な経費積算、調査期間の査定等の基礎となる資料を収集し、全体の事業量を掌握することができるようになる。つまり、予備調査は長期間にわたる発掘調査をより効率的に行い、全体計画の調整を図っていくことを目的としている。

今年度の予備調査では、山形南地区の石田遺跡・谷柏J遺跡・萩原遺跡・百目鬼遺跡・樋渡遺跡、山形中央地区の中道南遺跡・志戸田縄遺跡・熊ノ木遺跡、山形北地区の服部遺跡・藤治屋敷遺跡・馬洗場B遺跡・三条ノ目遺跡、天童地区の影沢北遺跡の合計13遺跡を実施した。

なお、山形北地区の三条ノ目遺跡・渋江遺跡・向河原遺跡、並びに山形中央地区の遺跡可能性地2については、用地取得等の関係から平成11年度に予備調査を行う予定である。

発掘調査に至るまでの経過は以下の通りである。

(第1次調査)

- ◆日本道路公団東北支社管理課長より山形県埋蔵文化財センター調査第一課長あてに、「平成10年度埋蔵文化財発掘調査に係る費用積算調書の作成」の依頼（H10/1/19）。
- ◆山形県埋蔵文化財センター理事長より日本道路公団東北支社支社長あてに、発掘調査を実施すること及び経費見積もりの回答（H10/2/10）。
- ◆日本道路公団東北支社支社長より山形県埋蔵文化財センター理事長あてに、「東北中央自動車道相馬・尾花沢線（上山～東根間）建設に伴う平成10年度の埋蔵文化財発掘調査の依頼（H10/4/1）。
- ◆日本道路公団東北支社と山形県埋蔵文化財センターとで、「埋蔵物発掘調査業務の委託契約」を締結（H10/4/1）。

II 遺跡の立地と環境

東北中央自動車道相馬・尾花沢線のうち上山～東根間は、上市市南部から東根市北部へかけて、南北に長い山形盆地をほぼ縦断するように建設される。

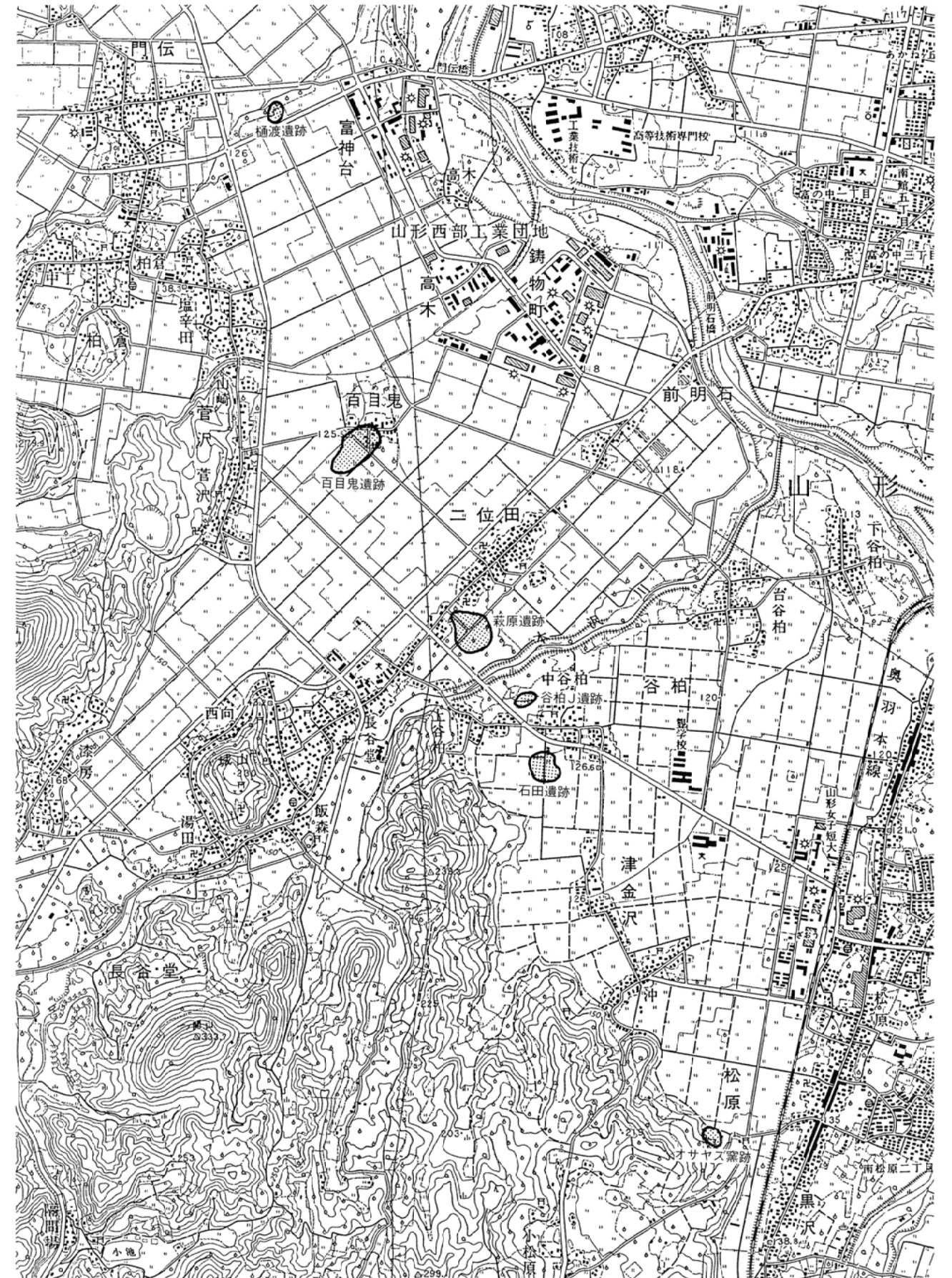
山形盆地は、山形県中央東側に所在し、南北に長い船底型の形状を示す。東側はより急峻な奥羽山脈、西側はなだらかな白鷹・出羽丘陵により他地域と画されている。盆地の東半分は、奥羽山脈の西麓に発達する馬見ヶ崎川、立谷川、乱川の三大扇状地が占め、中央部には最上川が広い氾濫原を形成している。

今回調査対象になった山形市から天童市にかけては、山形盆地の南部に位置している。自動車道の建設予定ルートは、市街地より西側の山形盆地南部の低地を走ることになっている。三大扇状地のうち、馬見ヶ崎川、立谷川扇状地の扇端部付近と須川沿岸低地が多くを占めていと言えよう。須川は中山町付近において最上川に合流する河川で、山形市街地の西側から南側にかけての最も低い盆地底を氾濫原を形成して流れている。このたび、予備調査を行なったのは、山形南地区の石田遺跡から天童地区の影沢北遺跡まで、須川の流域にごく近くに位置する遺跡が多い。

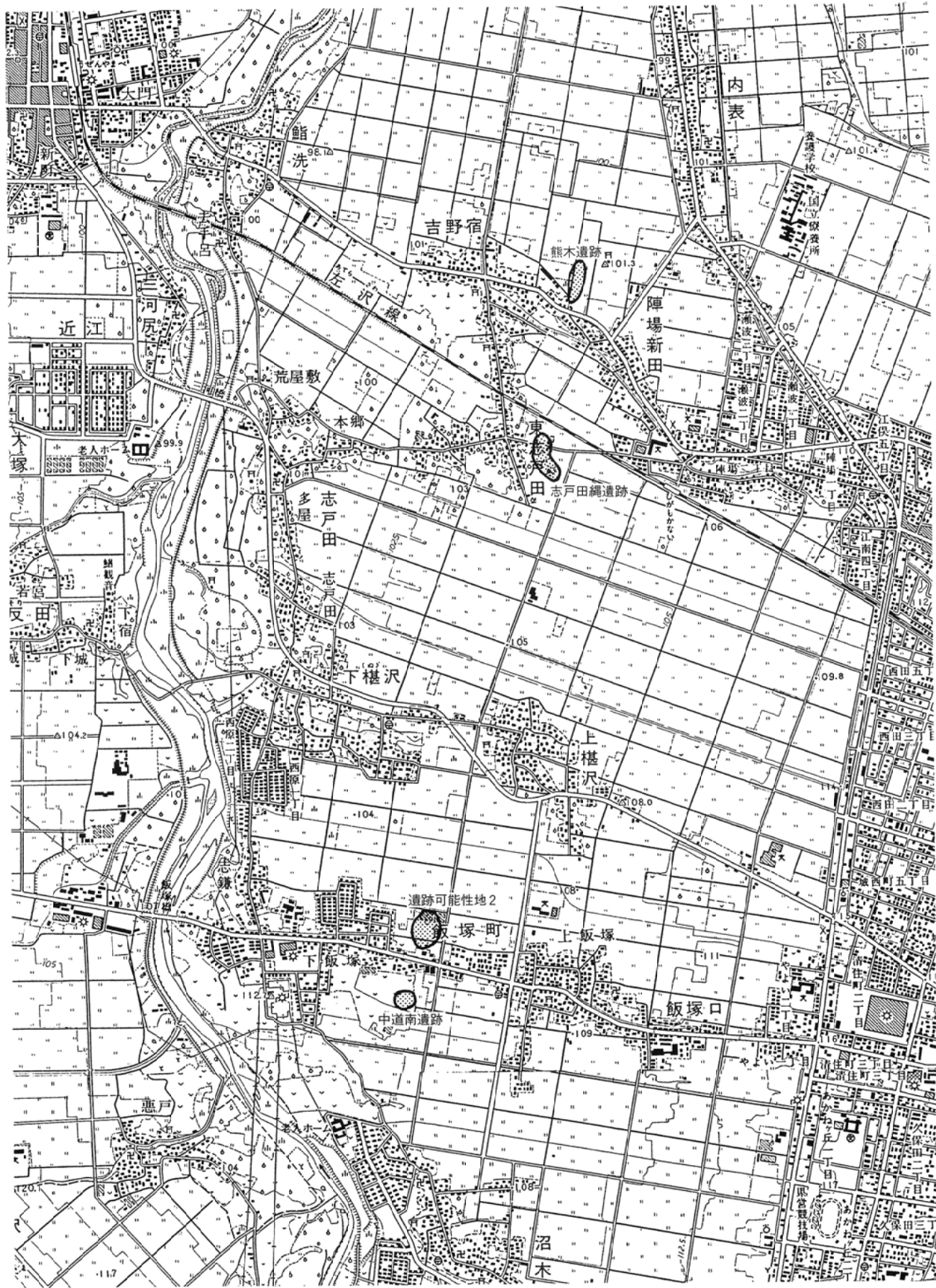
山形南地区の各遺跡は、西部白鷹丘陵から流れ下る本沢川扇状地上、もしくは後背湿地上の果樹園や水田地帯に立地する。山形市吉原付近で須川に合流する本沢川は、その大半が上市市山元地区など山間部を流れ、古戦場として有名な城山付近で平野部へと流れ出、そこから扇状地を形成する。ちょうど萩原遺跡の辺りが本沢川扇状地の中心、石田遺跡や百目鬼遺跡辺りがそれぞれ南と北の扇端部付近に位置している。この地域は豊かな自然環境に恵まれ、縄文の昔から絶えることのない人々の営みが続いている。周辺丘陵地に連なる谷柏古墳群や菅沢古墳の存在は、すでに古墳時代から有力な首長や大規模な集落があったのではないかとことをうかがわせる。南山形と本沢地区にはこのたび予備調査を実施した遺跡以外にも、各時代にわたって多様な遺跡の存在が、ほ場整備事業時の発掘などにより確認されている。

山形中央地区から山形北・天童地区にかけての各遺跡は、馬見ヶ崎川扇状地と立谷川扇状地の扇端部と須川の氾濫原との縫合地周辺に位置する遺跡が多い。中央地区の志戸田縄遺跡は、須川の西部の山形市金井地区東志戸田集落と田園地帯の境界付近に位置し、近くには有名な嶋遺跡がある。嶋遺跡は、昭和36年の土地改良事業に係わって発掘調査されたもので、6～7世紀の古墳時代の倉庫跡や住居跡とともに土師器や木器、木製農具などが出土し、大きな反響を呼んだ。この辺りは、山形市今塚遺跡など、古墳時代の集落跡が多い。

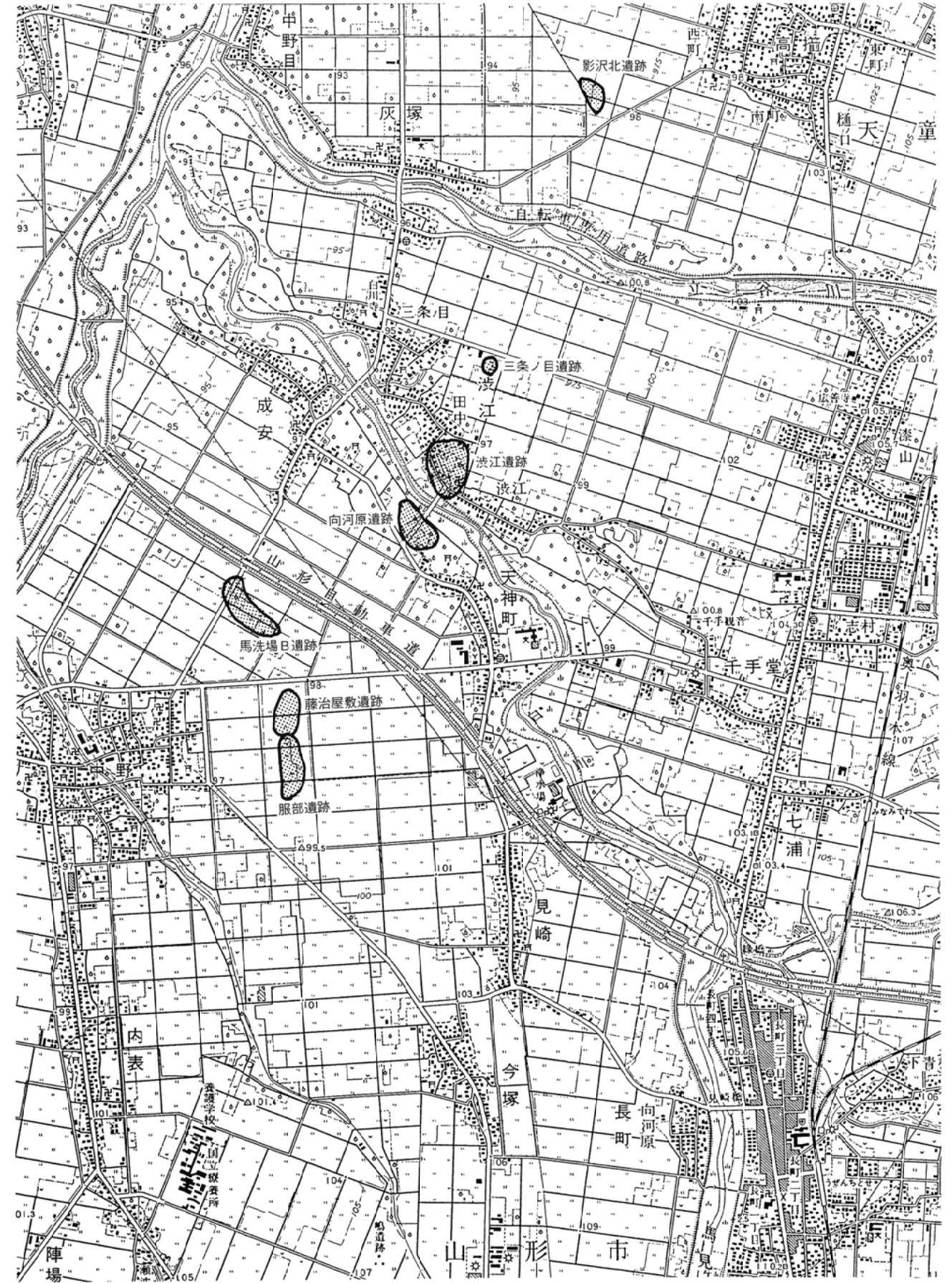
山形北地区の遺跡は、須川の西部、氾濫原が広がる低地から馬見ヶ崎川から続く白川の自然堤防上に立地し、山形市大郷地区と明治地区に位置している。この地域は、主に田園地帯が広がり標高95m～100mと山形市内でも、最も低い場所といえる。馬見ヶ崎川扇状地の扇端部に湧き出る豊富な湧水に恵まれてきた反面、最近では工事業用水等、地下水の過剰な汲み上げに伴う地盤沈下が問題になっている。船付き場があったといわれる船町、中野、成安、渋江など独特の土地の名も多く、歴史を感じさせる地域である。



第1図 山形南地区遺跡位置図 (S = 1 : 25,000)



第2図 山形中央地区地区遺跡位置図 (S = 1 : 25,000)



第3図 山形北・天童地区遺跡位置図 (S = 1 : 25,000)

Ⅲ 調査の概要

《山形南地区》

1 石田遺跡〈遺跡番号82〉

- 所在地 山形県山形市大字谷柏字石田（北緯38°12'36"・東経140°17'32"）
- 調査期日 平成10年4月22日～5月8日（10日間）
- 対象面積 8,500㎡ • 調査面積 584㎡
- 調査の概要

本遺跡は、山形市南山形地区谷柏と津金沢との間にあり、県道蔵王停車場・長谷堂線をはさんで、谷柏J遺跡と隣接している。遺跡付近は、本沢川の形成した扇状地の扇端部にあたる。標高は127mを測り、地目は水田になっている。この調査は、高速道路予定地を対象に1.5×20mのトレンチを基本の単位とし15本設定し、重機械によって25～40cm表土層（水田耕作土）を除去した後、面整理作業を行って遺構や遺物の分布状況を確認し、トレンチ毎に平面図や断面図などの記録を作成した。

調査の結果、本遺跡は近年のは場整備事業等により削平されていると思われる所が多く、北側のT1・2付近と中央部のT8～T11付近を除くと、礫がいたる所で見うけられた。全体的に、耕作土の下に炭化物を含んだ黒褐色ないし暗褐色シルト層をはさみ、その下に遺構確認面が来る。場所によって多少の色の違いはあるものの、灰色を基準としたシルト層でやや砂質性を帯びている所が多かった。深さは中央部のT8付近が20cm前後と浅く、他は30～40cm程であった。また、確認面の下部に厚く黒色層が堆積している箇所が多いが、T1・T2では、その下より縄文時代後期中葉の深鉢がややまとまって確認された。明確な遺構はないが、この付近は文化層が2面ある可能性が考えられる。他に遺構は、土坑がT1・11・12で、溝跡や河川跡はT9・T10で確認された。遺物は、T4から石匙、T5・10から青磁、T15から須恵器の破片などが出土しているが、T1・2の縄文土器以外はほんの数片であった。

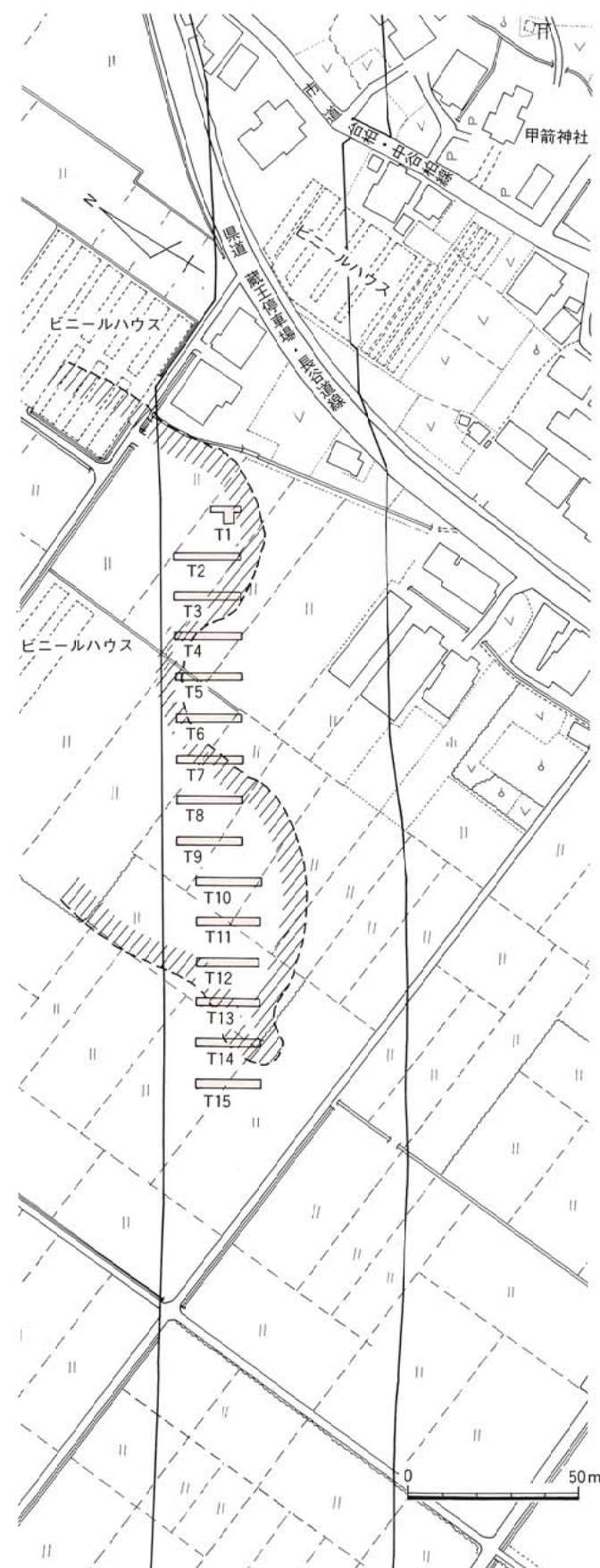
路線内の遺構範囲は、礫の多かった箇所を除き、縄文時代の土器が出土した付近を北方へ伸ばした4,700㎡で、当初推定した範囲より縮小している。調査対象区域については、平成11年度以降に緊急発掘調査が必要となる。



石田遺跡全景（北から）



石田遺跡全景（南から）



第4図 石田遺跡調査概要図（S=1:2,000）



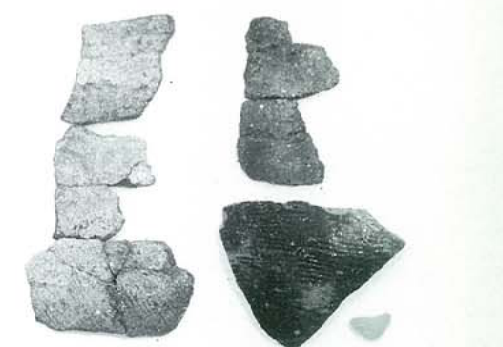
T1調査状況（東から）



T10柱穴・溝跡（東から）



T11調査状況（東から）



石田遺跡出土土器

2 谷柏J遺跡〈遺跡番号84〉

- ・所在地 山形県山形市大字谷柏（北緯38°12'46"・東経140°17'26"）
- ・調査期日 平成10年4月16日～5月8日（5日間）
- ・対象面積 4,700㎡ ・調査面積 260㎡
- ・調査の概要

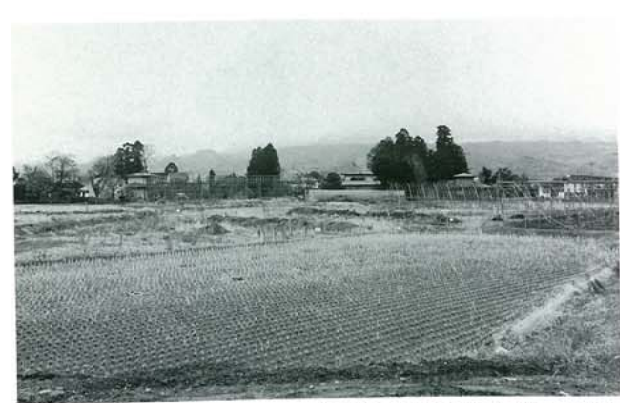
本遺跡は山形市南西部、中谷柏地区北西側の本沢川右岸の自然堤防上に立地する。地目は水田・畑地となり、標高130mを測る。遺跡東側を主要地方道蔵王・成沢・長谷堂線が通り、中央を谷柏新堰が流れる。地形は堰の東側が畑地、西側の傾斜する低地部が水田となる。

調査は高速道路建設予定地を対象に、2m×20mのトレンチを5本、2m×10mのトレンチを3本設定し、重機械により30～55cm程遺構確認面まで表土を除去した後、面整理作業を行って遺構および遺物の分布状況を確認し、トレンチ毎に平面図、断面図、写真撮影などの記録作業を実施した。

調査の結果、遺構はT1～6・8から土坑6基、溝跡1条、柱穴21基、性格不明遺構3基などが確認された。自然堤防の微高地となる畑地では、T1から炭化物が集中する土坑が、T8で火を受けた人骨と思われる骨片と、炭化物を多量に含む焼土状の広がり2カ所認められた。これらには遺物が伴出しておらず、時期は不明であるが、近世の埋火葬遺構と思われる。畑地区域は全体に耕作土が厚く、地山までの深さが55cm程あり、地山には暗褐色粘質シルト砂・砂利が多く含まれる。西側の水田は、T3～5で幅3mほどの溝跡と、炭化物を多く含む性格不明遺構が確認されている。地山までの深さは40cm程で、地山は灰色粘質シルトに砂・砂利が多く含まれており、グライ化している。

遺物はT1～4・8に分布しており、特にT2の分布が密である。いずれも破片で、古墳から平安時代の土師器の甕や坏・須恵器の甕・中世陶器・近世陶磁器などが整理箱にして1箱出土している。

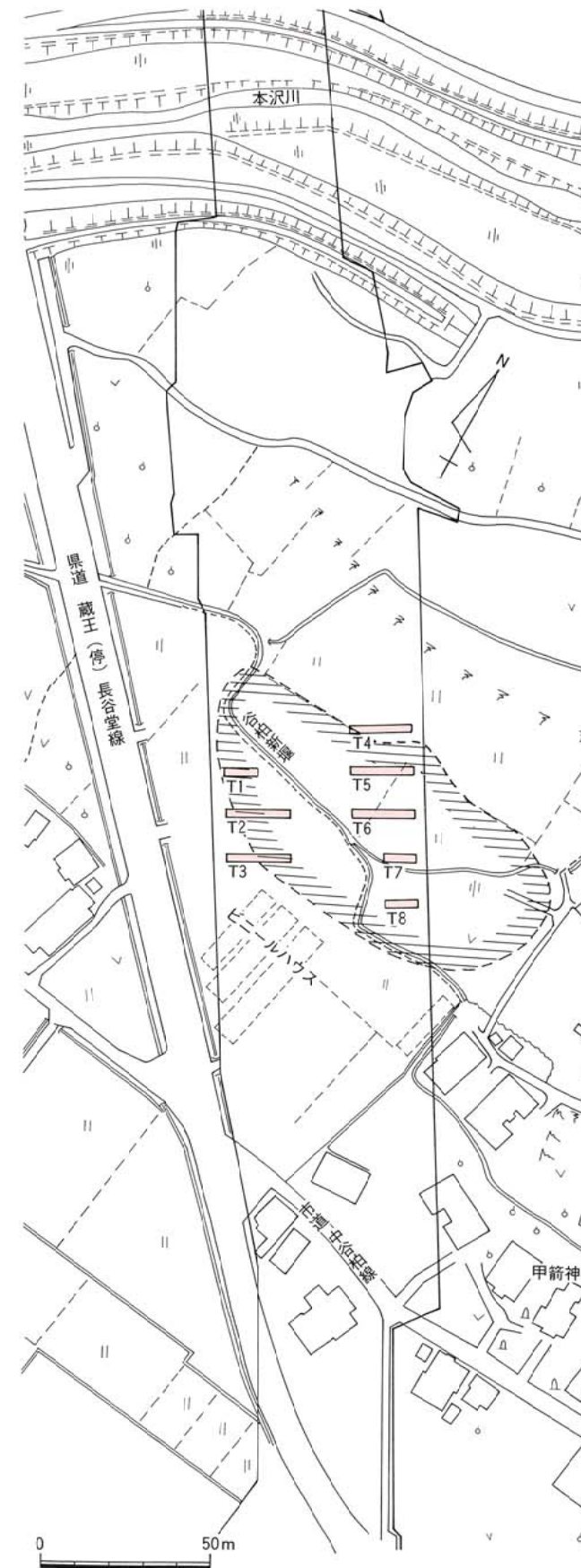
路線内の遺跡範囲は遺構、遺物の分布状況から、東西約116m・南北約59m・面積2,900㎡となり、当初の推定遺跡面積よりわずかに縮小された。調査対象区域については平成10年度以降に緊急発掘調査を実施することとなる。



谷柏J遺跡全景（西から）



谷柏J遺跡全景（東から）



第5図 谷柏J遺跡調査概要図（S=1:2,000）



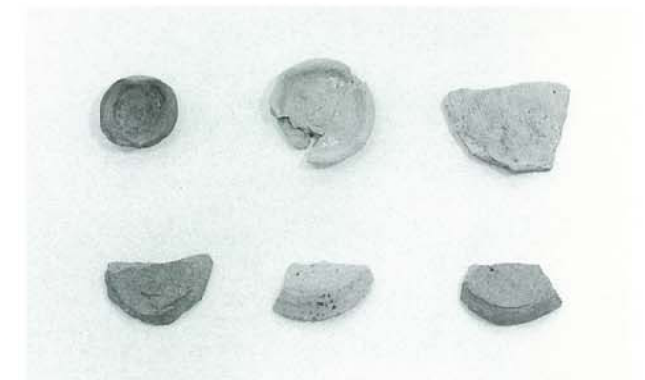
T3調査状況（西から）



T6柱穴・溝跡（西から）



T8調査状況（西から）



谷柏J遺跡出土土器

3 萩原遺跡〈遺跡番号101〉

- 所在地 山形県山形市大字長谷堂字萩原（北緯38°12'55"・東経140°17'17"）
- 調査期日 平成10年4月13日～平成10年5月8日（11日間）
- 対象面積 15,000㎡ ・調査面積 843㎡
- 調査の概要

本遺跡は山形市南西部の二位田地区南側、本沢川左岸沿いの自然堤防上の微高地に立地する。地目は水田・畑地（果樹畑）・宅地となり、標高132mを測る。

調査は高速道路建設予定地を対象に、2m×20mのトレンチを基本の単位として25本設定し、重機械で遺構確認面まで7cm～50cm程表土を除去した後、面整理作業を行って遺構・遺物の分布状況を確認し、トレンチ毎に平面図、写真撮影などの記録作業を実施した。

調査の結果、近年の基盤整備事業により全体的に削平され、特に市道長谷堂・二位田線を挟んだ北西部分は畑地の盛土などにより攪乱を受けている。地山は褐灰・灰黄褐色シルト質粘土で礫、砂が混じる。

遺構はT1～10・12～17・19～23から、竪穴住居跡、土坑11基、溝跡1条、柱穴52基などが確認された。竪穴住居跡は12棟確認され、覆土は黒褐色シルトで炭化物が含まれ、一部に焼土が混じる。T15住居跡は覆土中に多量の土師器などが入り一辺8mを測るが、表土から確認面まで7cm余りと浅く、近年の攪乱による土器の再堆積の可能性も考えられる。T20の南端と北端に炭化物が多量に混入する焼土状の広がりが見られ、T2～6で南北に伸びる幅10m程で礫層の厚い河川跡が確認された。

遺物は古墳～平安時代の須恵器・土師器などが整理箱にして2箱出土している。河川跡の礫層中にヘラ切り底を有する須恵器坏などの土器が多量に混入されている。T7住居跡から平安時代の須恵器、T15・21住居跡から古墳時代の土師器がまとめて出土した。

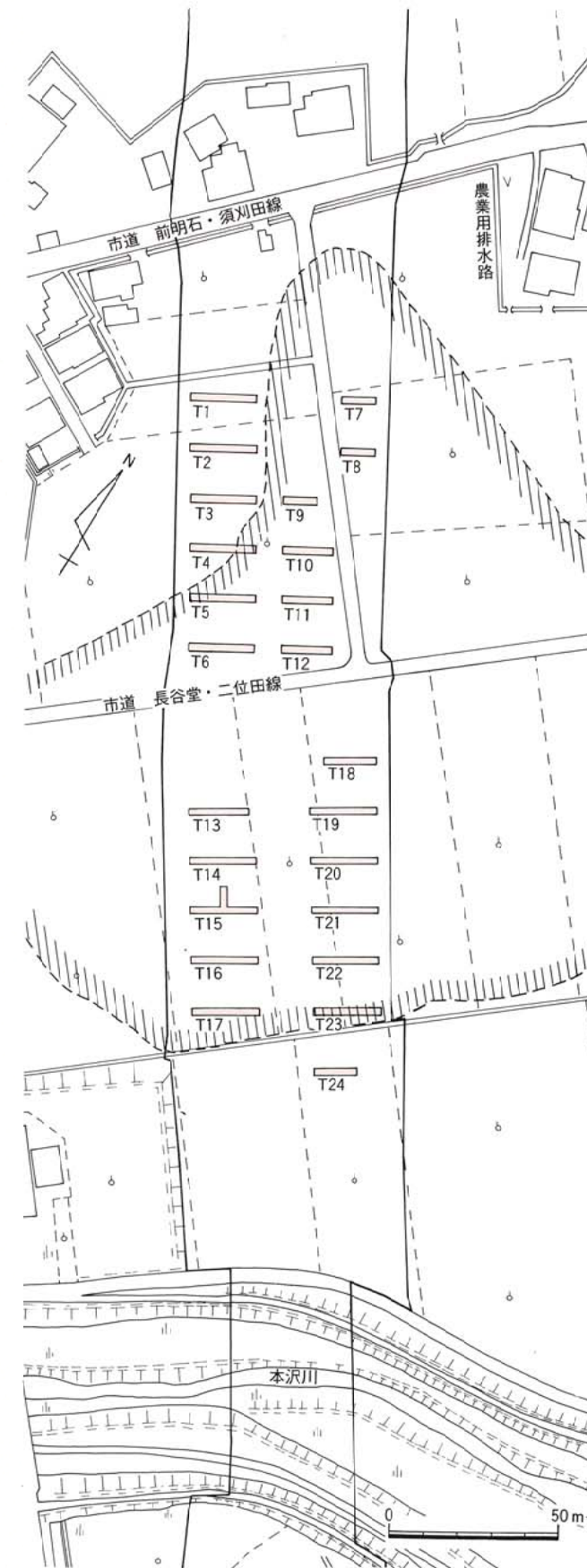
路線内の遺跡範囲は当初の推定面積よりわずかに拡大され、農業用水路を挟んだ段差地の北側から市道明石・須刈田線の近くまで、東西約140m・南北約150m、面積12,500㎡となる。調査対象区域については平成10年度に緊急発掘調査を実施することとなる。



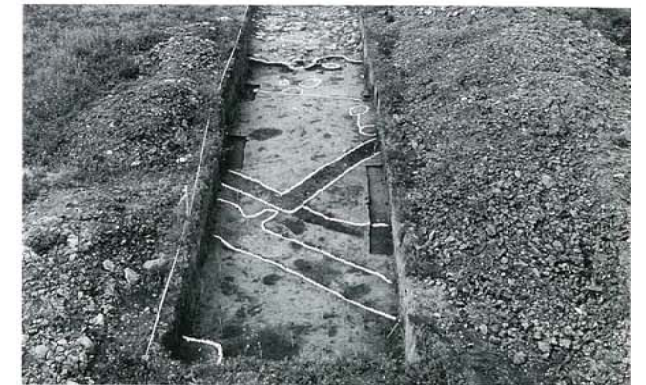
萩原遺跡全景（北西から）



T21土層端面（南から）



第6図 萩原遺跡調査概要図（S=1:2,000）



T6柱穴・溝跡（東から）



T22住居跡・溝跡（西から）



T15出土土器



萩原遺跡出土土器

4 百目鬼遺跡〈遺跡番号113〉

- ・所在地 山形県山形市大字百目鬼（北緯38°13'22"・東経140°16'56"）
- ・調査期日 平成10年4月10日～平成10年5月8日（5日間）
- ・対象面積 4,600㎡ ・調査面積 680㎡
- ・調査の概要

本遺跡は山形市南西部の百目鬼地区南西側、須川左岸の自然堤防上の微高地に立地する。地目は水田・畑地・宅地となり、標高127mを測る。

調査は高速道路建設予定地を対象に、2m×20mのトレンチを基本の単位として15本設定し、重機械により25cm程遺構確認面まで表土を除去した後、面整理作業を行って遺構および遺物の所在を確認し、トレンチ毎に平面図、断面図、写真撮影などの記録作業を実施した。

調査の結果、近年の基盤整備事業により全体的に削平され、南北にかけての水田面段差が約1mと著しいことが判明した。遺跡西側のT9・10付近では、平成10年に客土のために水田耕作土を除去した結果、残った地山までの深さが3m余りと浅くなっている。地山は灰黄褐シルト質粘土で砂層が混じり、グライ化している。

遺構はT2～7・9～15から竪穴住居跡、土坑6基、溝跡3条、柱穴20基、性格不明遺構3基などが確認されている。竪穴住居跡は3棟確認され、覆土は黒褐シルトで炭化物、土器粒が含まれるが、いずれも遺存状態が悪い。T11の性格不明遺構と柱穴の覆土は褐灰シルトに炭化粒を含み、周囲と比較するとより古い覆土が認められる。幅50～80cmほどの溝跡は東西および南北に走り、炭化物がわずかに含まれる。

遺物は平安時代の上師器の甕・坏や須恵器の甕・糸切り底を有する赤焼土器の坏などの破片資料が整理箱にして2箱出土している。T1～3・T5～7・9・10・13・14に分布しているが、いずれも摩耗が著しい。

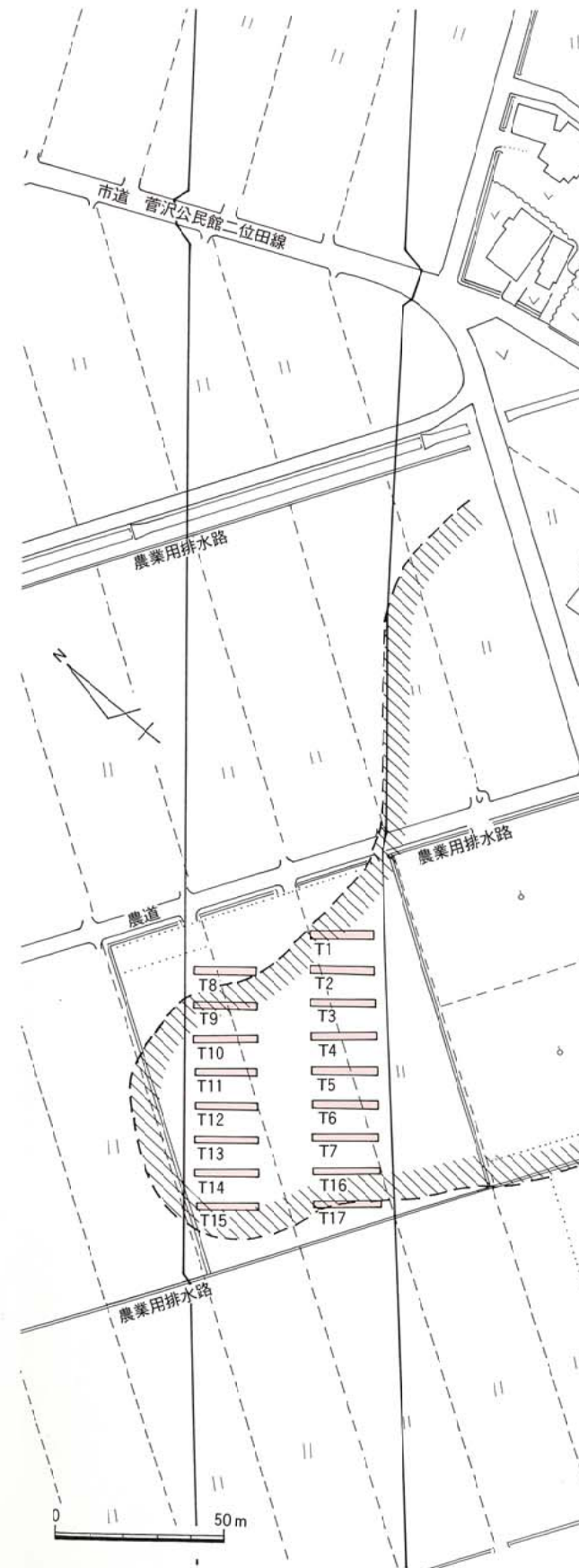
路線内の遺跡範囲は遺構および遺物の分布状況から、東西約75m・南北約79m、面積4,600㎡となり、当初の推定範囲よりわずかに縮小された。調査対象区域については平成10年度に緊急発掘調査を実施することとなる。



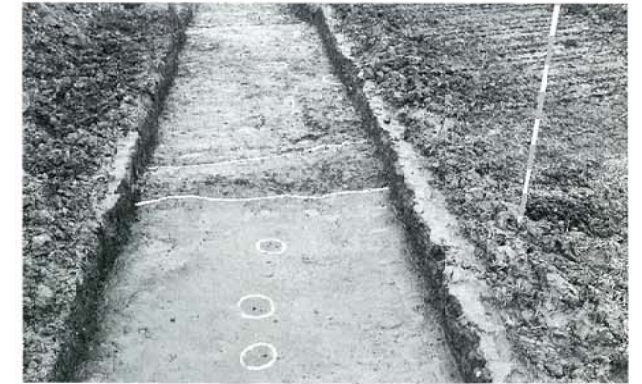
百目鬼遺跡全景（西から）



トレンチ設定作業（西から）



第7図 百目鬼遺跡調査概要図（S=1:2,000）



T4柱穴・溝跡（西から）



T10土坑・溝跡（西から）



T14溝跡（西から）



百目鬼遺跡出土土器

5 樋渡遺跡〈平成2年度登録〉

- ・所在地 山形県山形市大字富神台字樋渡（北緯38°14'13"・東経140°16'39"）
- ・調査期日 平成10年4月10日～5月8日（2日間）
- ・対象面積 1,700㎡ ・調査面積 260㎡
- ・調査の概要

本遺跡は山形市西部、門伝地区の東側に位置し、地目は水田及び畑地で、標高119mを測る。遺跡北側に富神川が流れ、南側を主要地方道山形・白鷹線が通る。遺跡は富神川が形成する自然堤防の微高地と、その間の水田段差のある地形に立地する。

今回の調査は遺跡を横断する農道の南側、ホップの栽培が行われていた畑地を中心とした高速道路建設予定地を対象に行った。2m×20mのトレンチを6本、2m×10mのトレンチを1本設定し、重機械により地山面まで35～48cm程表土を除去した後、面整理作業を行って遺構及び遺物の所在を確認し、その後トレンチ毎に平面図、断面図の作成、写真撮影などの記録作業を実施した。

調査の結果、原地形は現況の水田地形から考慮すると、近年の基盤整備事業の際の切り盛り整地により、かなり削平されていることが判明した。自然堤防上の微高地となる畑地もホップ畑造成時に削平されている。特にT1・3・5はホップ棚の支柱を埋め込む際に広範囲にわたって攪乱を受けており、遺構の確認は困難となる。

遺構・遺物については、T2からT6にかけて東西へ走る近現代のものと思われる石組みの暗渠跡が一条と、近世の陶磁器の破片が数片確認されただけである。

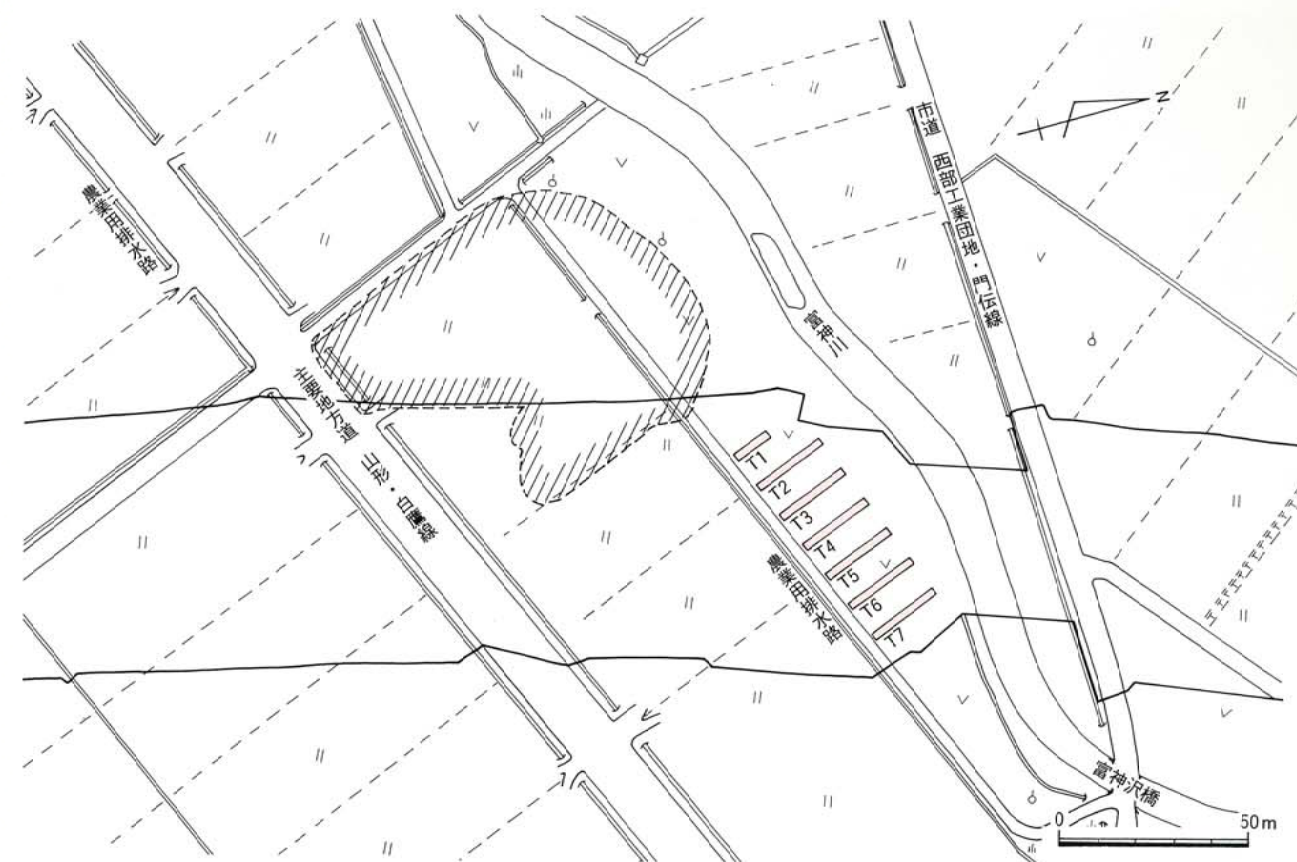
今回の調査は、富神川南側の畑地区域を対象として、段丘上の水田区域については未調査となるため、遺跡の全体を把握する事は困難で、この地区については、山形県文化財課による分布調査の結果、南西隅に遺構・遺物の分布が認められている。したがって遺跡の中心は、路線の西側の主要地方道山形・白鷹線北側の水田区域と想定される。路線内の遺跡範囲は東西約25m・南北約45m・面積約810㎡となり、当初の推定範囲よりわずかに縮小された。遺跡範囲と考えられる区域については、平成10年度に緊急発掘調査を実施することとなる。



樋渡遺跡全景（西から）



樋渡遺跡全景（南西から）



第8図 樋渡遺跡調査概要図（S=1:2,000）



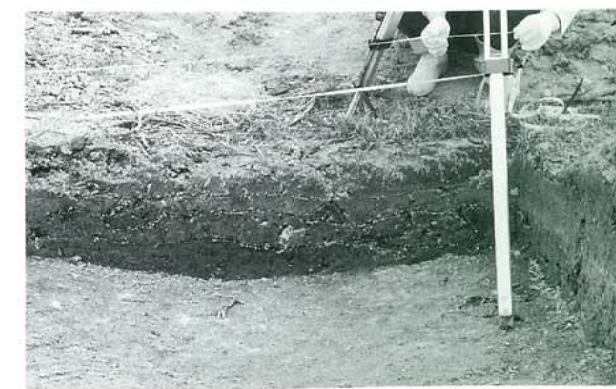
作業状況（西から）



T5調査状況（南から）



T3土層断面（東から）



T6土層断面（西から）

《山形中央地区》

6 中道南遺跡〈平成10年度登録遺跡〉

- 所在地 山形県山形市飯塚町字中道南（北緯38°15'11"・東経140°17'28"）
- 調査期日 平成10年10月27日～11月13日（9日間）
- 対象面積 14,800㎡ ・ 調査面積 530㎡
- 調査の概要

本遺跡は、山形盆地のほぼ中央部に位置する飯塚地区の北西に所在し、西側を流れる須川の沖積地に立地し、標高104～105mを測る。地目は畑地となっている。

調査は、高速道路建設予定地を対象に草刈りを行った後に、2×15mを基本の単位とした22本のトレンチを設定して、重機械によって表土層（耕作土）及び盛土層を約40～70cm除去した。その後、面整理作業を実施して遺構や遺物の所在を確認し、トレンチ毎に平面図と土層断面図などの諸記録を作成した。

なお、T3・5・6・16・22については人力によって表土層と盛土層を削除しながら調査を進めた。

調査の結果、路線内全域にわたり地山面を削平して盛土を行っている跡がみられた。そのため、遺構は河川跡と思われる落ち込みがT8・10・16に確認されたのみであった。

河川跡は上面の削平が明確にわかり、覆土は概ね3層に大別される。上層が灰色シルト、中層が黒褐色粘土、下層は黒褐色砂となる。確認面から深さ60cmの砂層から加工痕のある木製品が出土したが、共伴する土器の出土が無いため時期は不明である。

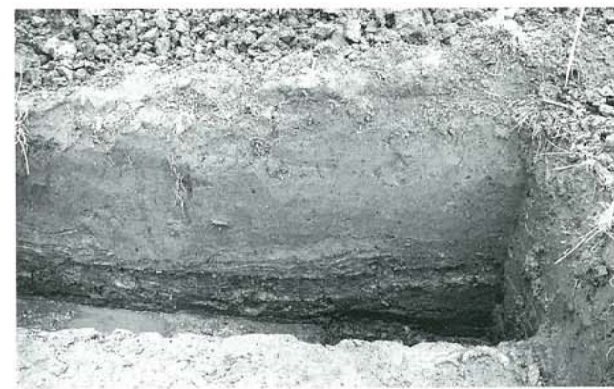
遺物は、T3から陶磁器片、T5から陶器片と石製品、そして表土下65cmから縄文土器片が1点、T16の表土下40cmから縄文時代晩期と考えられる土器の破片が数点と、盛土層から陶磁器片1点が出土した。陶磁器片は大半が近世のものである。

また、T22の表土下85cmから骨片と棺桶と思われる木製品及び古銭（寛永通宝）が4枚出土した。近世の墓跡と考えられる。出土した遺物の箱数は、木製品や石製品を含め3箱である。

以上から、遺跡の主たる範囲は遺構と遺物の集中地域である農業排水路北側、路線内中央の東側寄りと推定される。ただし、路線内からは河川跡以外の遺構は検出されず、遺物の出土も少ないことから平成11年度以降の緊急発掘調査の対象からは除外される。



中道南遺跡全景（北から）



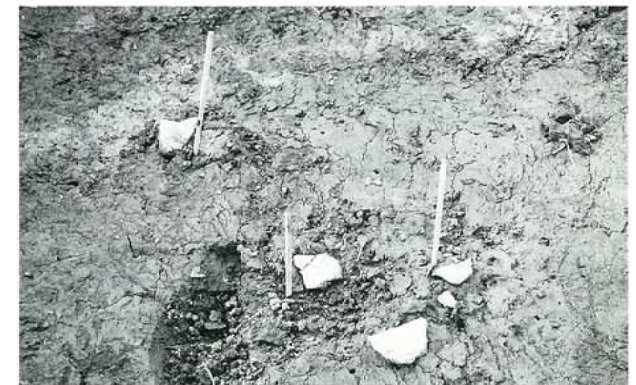
T16盛土・河川跡土層断面（北から）



第9図 中道南遺跡調査概要図（S = 1 : 2,000）



T8調査状況（西から）



T16土器出土状況（東から）



T22遺物出土状況（西から）



中道南遺跡出土遺物

7 志戸田縄遺跡〈平成10年度登録遺跡〉

- ・所在地 山形県山形市大字陣場字志戸田縄（北緯38°16′30″・東経140°18′00″）
- ・調査期日 平成10年9月7日～9月11日（5日間）
- ・対象面積 7,200㎡ ・調査面積 568㎡
- ・調査の概要

本遺跡は、山形市の北西に位置する陣場地区に所在し、JR左沢線東金井駅の西約0.5kmの水田地帯に立地する。標高は102mを測り、地目は水田・畑地となっている。

調査は、高速道路建設予定地を対象に2×10m・2×20mを基本の単位として、トレンチを18本設定して、重機械によって30～40cm表土層（耕作土・盤土）を除去した後、面整理作業を実施して遺構や遺物の所在を確認し、トレンチ毎に平面図と土層断面図などの諸記録を作成した。

路線内の層序は、農道南側は、耕作土、赤褐色砂、褐色砂、青色粘土となり、遺構検出面は表土下20～35cmの褐色砂層となる。また、農道北側は、耕作土、褐灰色粘質シルト、青灰色砂質シルトとなり、遺構検出面は表土下25～35cmの青灰色砂質シルト層である。

調査の結果、過去の県営ほ場整備事業によって遺構の上面から中位まで削平されているためか遺物包含層は検出されず、表土層を除去すると溝跡・土坑などの遺構が確認できる。

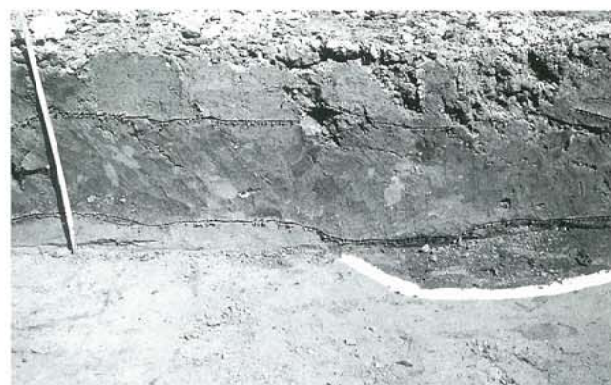
遺構は、幅1～1.5mを測りトレンチ内で直角に曲がる溝状の遺構が微高地となる農道南側のT4・14検出され、河川跡は農道北側のT7～9で確認された。また、井戸跡がT11で1基、土坑がT4・6・7・12～15で認められ、T12では3基が重複している。柱穴はT6・11～13・15で確認された。遺構の覆土は概ね、黒色シルトと青灰色砂混じりシルトとなる。

遺物は、T4・6・7・9・10から出土し、とくに、T4溝状遺構の履土とT9河川跡履土から多く出土している。さらに、河川跡からは土師器甕の破片がまとまって出土した。遺物の主な時代は、古墳時代の土師器片が大半を占め、奈良・平安時代の須恵器や赤焼土器の破片が数点見られる。その他、砥石が1点出土した。遺物は整理箱に1箱出土している。

路線内の範囲は、遺構や遺物が多く確認されたT3～T13、南北の長さ60～95mで路線幅（東西）55～75mの範囲となり、路線内面積が約5,250㎡である。当初推定していた範囲より、北側と東側に広がった。平成10年度以降に緊急発掘調査が必要となるものである。



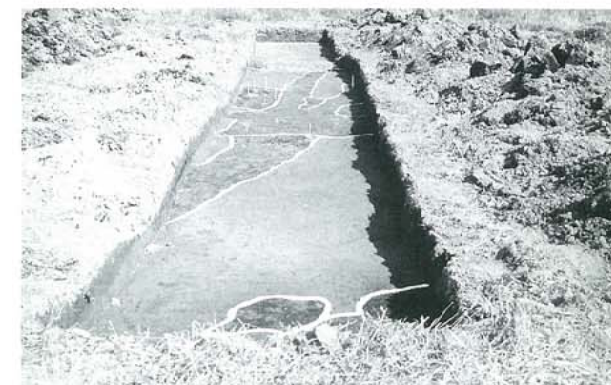
志戸田縄遺跡遠景（南東から）



T13土層断面（南から）



T12溝跡・土坑（東から）



T4調査状況（西から）



T9土器出土状況（北西から）



志戸田縄遺跡出土土器



第10図 志戸田縄遺跡調査概要図（S=1:2,000）

8 熊ノ木遺跡〈平成10年度登録遺跡〉

- ・所在地 山形県山形市大字陣場新田字熊ノ木（北緯38°16′58″・東経140°18′07″）
- ・調査期日 平成10年10月27日～11月13日（5日間）
- ・対象面積 12,400㎡ ・調査面積 470㎡
- ・調査の概要

本遺跡は、山形市北西部陣場地区に所在し、JR左沢線東金井駅北西約1kmの水田地帯に立地する。標高は100mを測り、地目は水田となっている。

調査は、高速道路建設予定地を対象に2×10mと2×20mを基本の単位として17本のトレンチを設定し、重機械によって30～40cm表土層（耕作土・盤土）を除去した後、面整理事業を実施して遺構や遺物の所在を確認し、トレンチ毎に平面図と土層断面図などの諸記録を作成した。層序は、表土下50cmで暗灰色粘質シルト層となり、中間層に若干のシルト層を含むが、調査区内全域にわたり厚さ30～40cmの砂層が入る。

このことから、整地して砂を敷き詰めた後に土を盛り整備したと推定される。また、微高地となるT6・8～11には、表土下55～80cmの厚さで礫・砂利・コンクリート等を多量に混入する盛土層があり、その下の旧地形は周辺の水田とほぼ平坦であったことも確認された。

調査の結果、路線内全域にわたって、過去の県営ほ場整備事業の際に削平を受けたためか、遺構はT5で柱穴が3基・河川跡がT2・4・8・9で検出されたのみである。

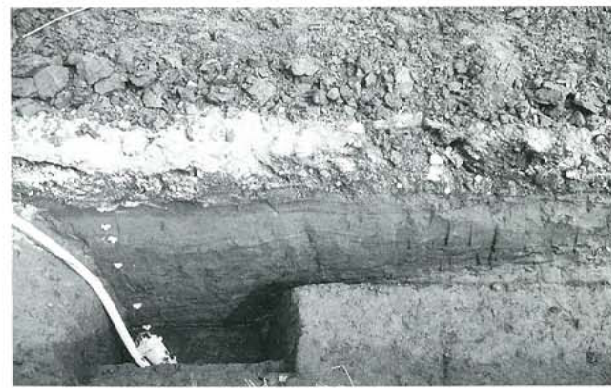
遺物は、T1・5・8・9・10・12～16で出土したが、その大半は近世の陶磁器片であり、表土中からの出土である。ただし、古墳時代の土師器甕破片や奈良・平安時代の赤焼土器の破片がT10・13～16で数点出土した。遺物の量は整理箱に1箱である。

路線内は遺構が全面にわたって削平されているため、遺物は近年のものが少量出土するのみで、明確な遺構は検出されていない。ただし、河川跡が検出された西側の各トレンチから古墳・奈良・平安時代の遺物が少量出土していることから、路線外西側に遺跡の中心があると考えられる。

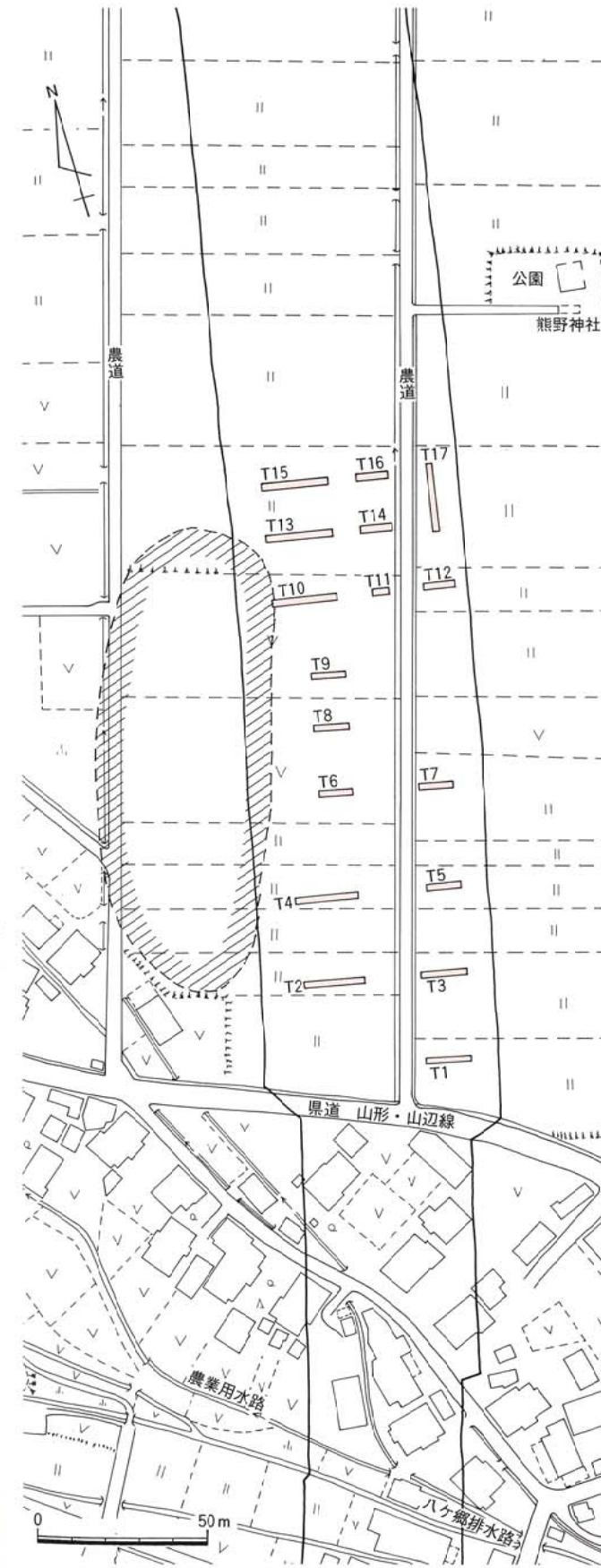
遺跡範囲は一部路線内の西端部に延びると思われるが、この部分は遺構・遺物が希薄であるので、平成11年度以降の緊急発掘調査の対象からは除外される。



熊ノ木遺跡全景（北から）



T9土層断面（南から）



第11図 熊ノ木遺跡調査概要図 (S=1:2,000)



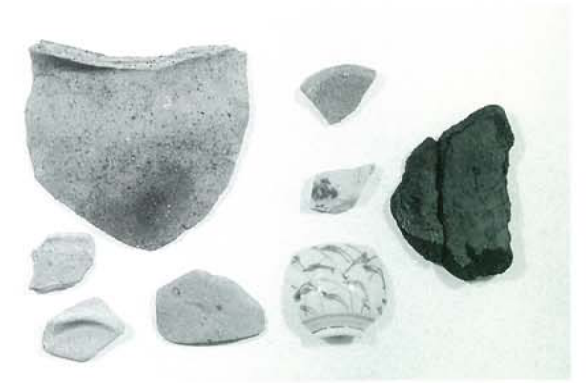
調査状況（東から）



T1調査状況（西から）



T5調査状況（西から）



熊ノ木遺跡出土遺物

《山形北地区》

9 服部遺跡〈遺跡番号156〉

- ・所在地 山形県山形市大字中野字服部（北緯38°18′06″・東経140°19′05″）
- ・調査期日 平成10年11月6日～11月30日（14日間）
- ・対象面積 26,000㎡ ・調査面積 954㎡
- ・調査の概要

本遺跡は山形市北西部、中野地区の東側に位置し、地目は水田・畑地で、標高96.3mを測る。遺跡南側を県道中野・長町線が通る。遺跡は沖積地の微高地に立地し、畦畔を兼ねた小さな水路を挟んだ北側が藤治屋敷遺跡となる。

調査は畑地とその東西の水田区域の高速道路建設予定地を対象に行った。2m×20mのトレンチを基本の単位として29本設定し、重機械により10～55cm程表土を除去した後、面整理作業を行って遺構及び遺物の所在を確認し、トレンチ毎に平面図、断面図の作成、写真撮影などの記録作業を実施した。

調査の結果、遺跡中央の畑地から離れた東西の低い水田からは遺構が検出されなかった。これらの地区の地山は、T15～23の西側水田が灰黄褐粗砂、T8・11～13・24の中央の畑地が灰白シルト、T4～7の東側水田は下層が泥炭層となる。T1～3・7～13・19～24・26・29・30で土坑9基、溝跡7条、柱穴25基、性格不明遺構6基などが確認された。西側の水田から中央の畑地にかけてのT8・20～30に遺構が集中しており、覆土が暗褐・褐灰色シルトで一部に炭化粒が混じる。T24～8で幅約6mのL字形の溝が検出された。遺構確認面は深さ約20～40cmとなる。

遺物は古墳～平安時代の土師器・須恵器・赤焼土器・中世陶磁器の破片や古銭が整理箱にして3箱出土した。T1～3・7～13・15～24・26・28～30に分布している。T8の柱穴よりヘラ切り底に「今世」が確認できる墨書土器が出土した。遺跡の時期は北半が中世、南半が古墳～奈良時代となる。

路線内の遺跡範囲は、東西約129m・南北約118m、面積12,100㎡となり、当初の推定範囲よりわずかに拡大され、藤治屋敷遺跡と接続する。調査対象区域については平成11年度に緊急発掘調査を実施することとなる。



服部遺跡全景（西から）



服部遺跡全景（南東から）

10 藤治屋敷遺跡（平成2年度登録）

- ・所在地 山形県山形市大字中野字藤治屋敷（北緯38°18′14″・東経140°19′03″）
- ・調査期日 平成10年11月5日～11月30日（15日間）
- ・対象面積 20,000㎡ ・調査面積 555㎡
- ・調査の概要

本遺跡は山形市北西部、中野地区の東側に位置し、地目は水田・畑地となり、標高97mを測る。遺跡北側を県道大森・中野線、西側を県道中野・長町線が通る。遺跡は沖積地の微高地に立地し、畦畔を兼ねた小さな水路を挟んだ南側が服部遺跡となる。

調査は遺跡を横断する農道の北側、ビニールハウスを除いた畑地と南側の水田を中心とした高速道路建設予定地を対象に行った。2m×20mのトレンチを9本、調査区西に拡張区を設定し、重機械により15～40cm程表土を除去した後、面整理作業を行って遺構及び遺物の所在を確認し、トレンチ毎に平面図、断面図の作成、写真撮影などの記録作業を実施した。

調査の結果、近年に基盤整備事業により削平を受けており、原地形はT3・4から西区の水田付近へ東西に河川が流れ、その周囲は湿地帯となっていたと考えられる。地山は畑地が灰色砂質シルト、水田部分は褐灰シルトで一部グライ化している。

遺構はT2～5・T7～9・T27・西区から土坑12基、溝跡4条、柱穴23基、河川跡1条、性格不明遺構3基などが確認された。T1・6では植物遺体の炭化物が多量に見られ、その下層は泥炭層となる。土坑は覆土が黒褐・褐灰色シルトで、西区の土坑の一部に炭化物・土器粒・焼土状の広がり・骨片などが含まれているが、覆土の時期は中世と考えられる。遺構確認面までは深さ約20～40cmとなる。

遺物は平安時代の須恵器・赤焼土器・中世陶器・青磁の破片資料や砥石などが整理箱にして2箱出土している。T1・2・4・27・西区に分布しており、特に西区の河川跡からの中世陶器の出土が顕著である。

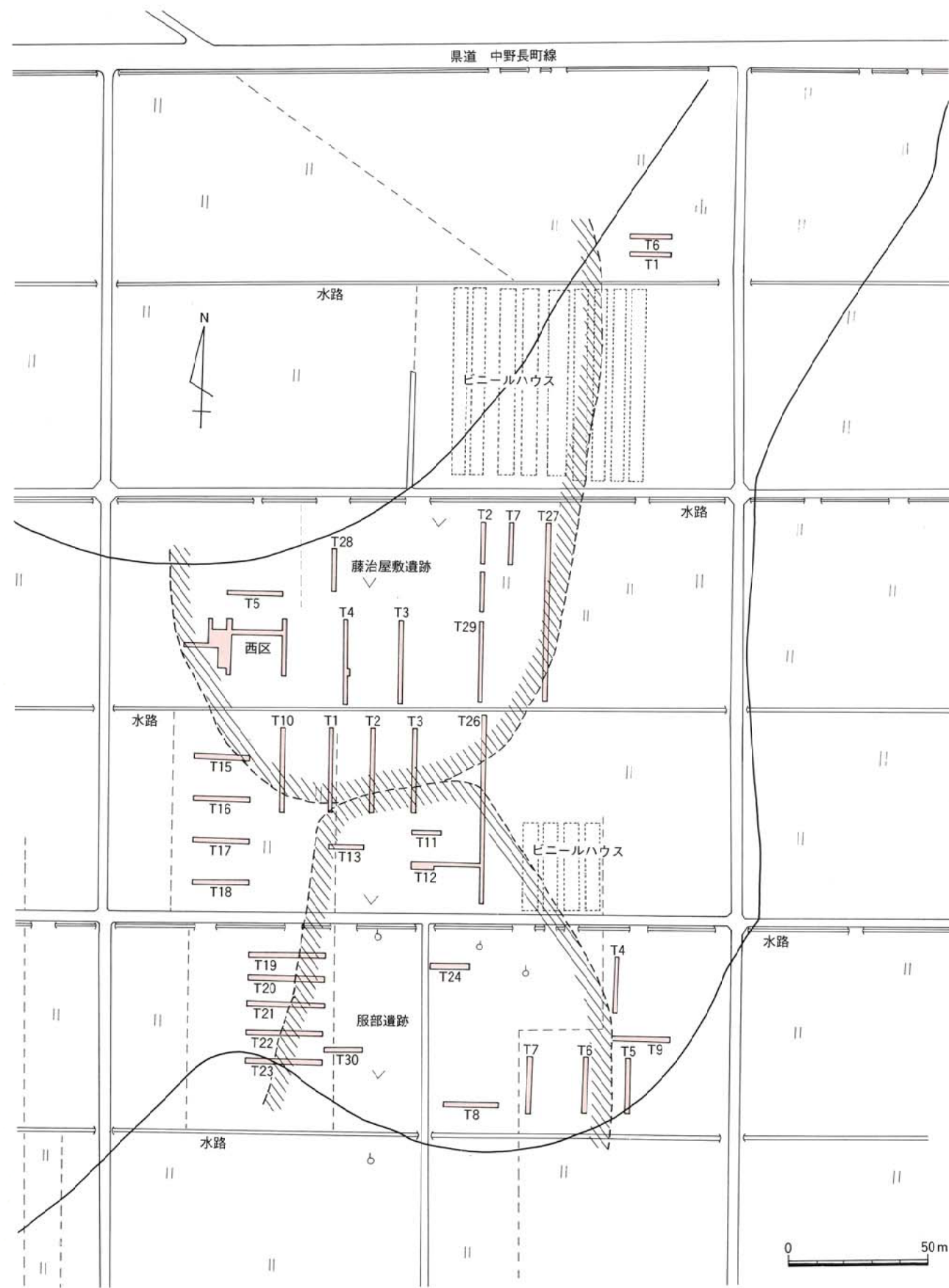
路線内の遺跡範囲は遺構、遺物の分布状況から、東西約102m・南北約140m・面積14,700㎡となり、当初の推定範囲より大幅に拡大される。調査対象区域については平成11年度に緊急発掘調査を実施することとなる。



藤治屋敷遺跡全景（西から）



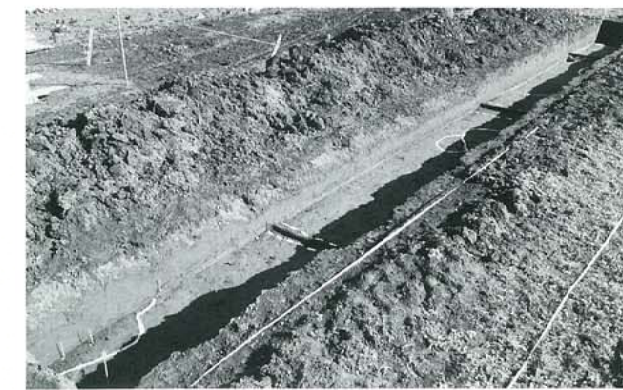
T3作業状況（北西から）



第12図 服部・藤治屋敷遺跡調査概要図 (S = 1 : 2,000)



服部遺跡T1溝跡 (北から)



T8調査状況 (南西から)



服部遺跡T24溝跡 (南西から)



服部遺跡出土遺物



藤治屋敷遺跡T29土層断面 (西から)



T4土坑・溝跡 (南から)



西区性格不明遺構 (南から)



藤治屋敷遺跡出土土器

11 馬洗場B遺跡 (平成2年度登録)

- ・所在地 山形県山形市大字中野字馬洗場 (北緯38°18'29"・東経140°18'57")
- ・調査期日 平成10年11月5日～11月30日 (4日間)
- ・対象面積 6,200㎡ ・調査面積 200㎡
- ・調査の概要

本遺跡は山形市北西部、中野地区の北東側に位置し、地目は水田及び畑地となり、標高96.80mを測る。遺跡北側を主要地方道中野・長町線、南側を主要地方道大森・中野線が通る。遺跡は沖積地の微高地とその間の水田段差のある地形に立地する。

調査は高速道路建設予定地を対象に、2m×20mのトレンチを基本の単位として9本設定し、重機械により20～50cm程遺構確認面まで表土を除去した後、面整理作業を行って遺構・遺物の所在を確認し、トレンチ毎に平面図、断面図、写真撮影などの記録作業を実施した。

調査の結果、近年の基盤整備事業により削平を受けており、原地形はT1～6の畑地からT7～8の水田へ西に向かって地盤が下がり、その段差が40cm余りとなる。地山は畑地が黄褐砂質シルト、水田部分は灰色粘土でその下は泥炭層となる。

遺構はT1～5・7から土坑7、埋設土器2基、溝跡2条、柱穴20基などが確認された。T3～5で古墳時代の竪穴住居跡が3棟・掘立柱建物跡が1棟確認された。覆土は褐灰色シルトで炭化物・土器粒・一部に焼土が含まれる。遺構確認面までの深さは約20～40cmとなる。T7～8の水田から近世のものと思われる幅120cm程の溝跡が確認された。

遺物は古墳時代の土師器、平安時代の須恵器、赤焼土器などの破片や、近世のものと思われる墓石などが整理箱にして1箱出上している。T1～5に多く分布しており、T4中央部の竪穴住居跡付近で古墳時代の土師器埋設土器2基が確認された。水田のT7・8では遺物は確認できず、この付近が遺跡の南端になると思われる。

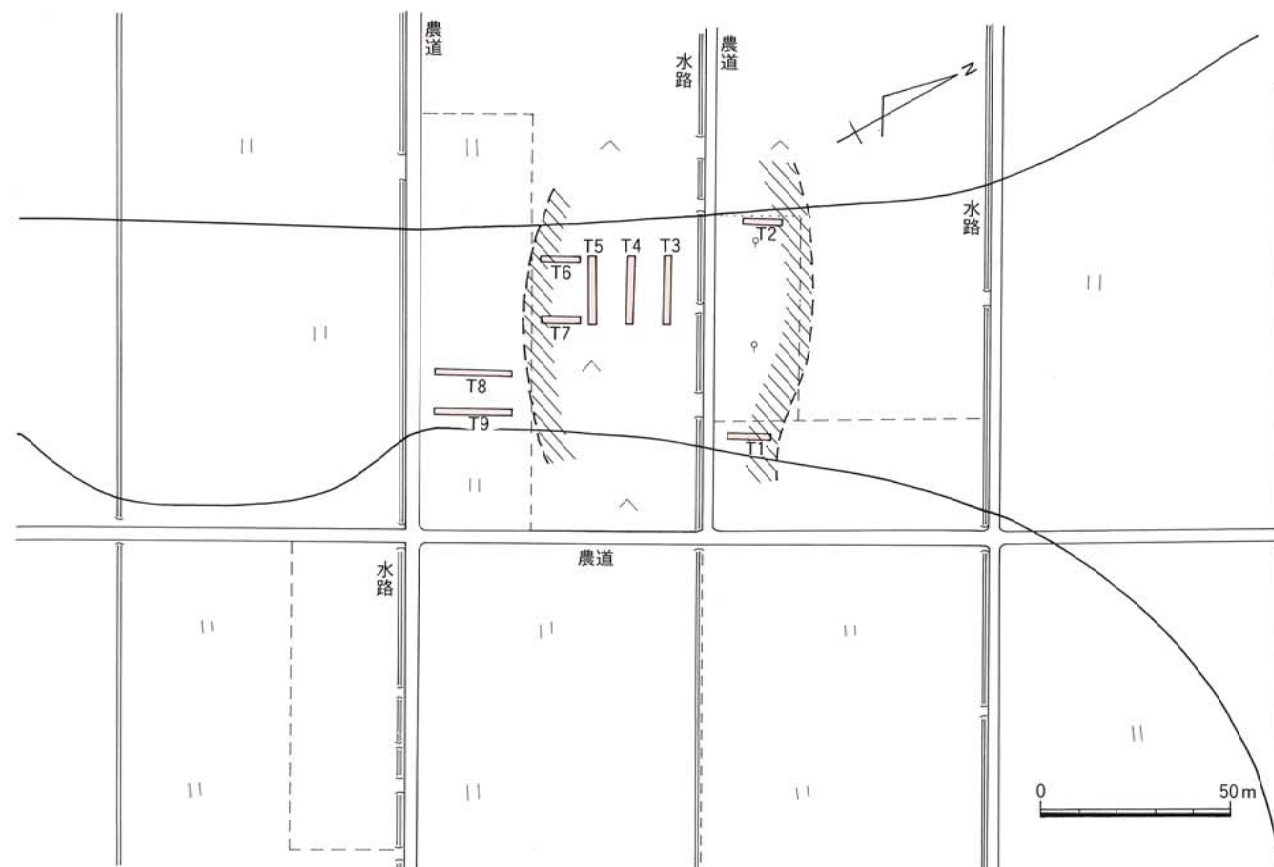
路線内の遺跡範囲は遺構、遺物の分布状況から、東西約82m・南北74m・面積4,200㎡となり、当初の推定面積よりわずかに縮小される。調査対象区域については平成11年度に緊急発掘調査を実施することとなる。



馬洗場B遺跡全景 (東から)



馬洗場B遺跡全景 (北西から)



第13図 馬洗場B遺跡調査概要図 (S=1:2,000)



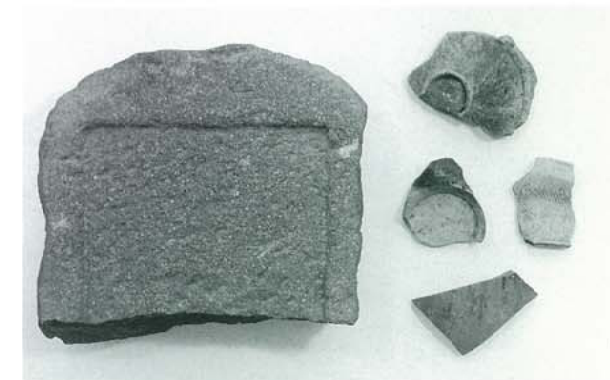
T3 柱穴・溝跡 (東から)



T9 調査状況 (南から)



T4 出土埋設土器 (南西から)



馬洗場B遺跡出土遺物

12 三条ノ目遺跡〈平成10年度登録遺跡〉

- ・所在地 山形県山形市大字洪江字三条（北緯38°19′36″・東経140°21′43″）
- ・調査期日 平成10年11月9日～11月16日（2日間）
- ・対象面積 6,500㎡ ・調査面積 25㎡
- ・調査の概要

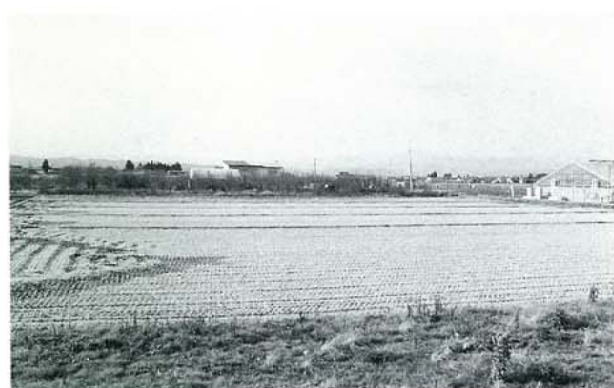
三条ノ目という地名は、遺跡付近を広く包括する集落名である。遺跡の所在する場所は、現在、大字洪江字三条で三条遺跡となるところだが、近年発掘調査が行われた東北横断自動車道関係の三条遺跡があり混同することや、この地が古くから三條目と呼ばれ、現在も広く定着した土地名であることから、遺跡名を三条ノ目遺跡として登録した。

本遺跡は、山形市洪江地区内の北方に所在している。立谷川扇状地と馬見ヶ崎扇状地の縫合地を流れる白川の自然堤防近くの微高地に立地し、標高は約97mを測る。地目は、路線内西側が資材置場、東・南側が畑地となっている。

調査に先だって山形県教育委員会文化財課により、資材置場において分布調査を行った結果深さ123cmの所より古墳時代の土師器が出土している。今回の調査は、文化財課の調査を受けて、さらに遺跡範囲を推定するために、畑地内に1.5m×15mのトレンチを1本と一辺30cmのテストピットを6個設定して行った。トレンチは重機械によって表土層を除去した後、面整理作業を実施して、遺構や遺物の有無を確認し、平面図や写真等の記録を作成した。

調査の結果、T1・TP1～6全てから遺構、遺物とも検出されなかった。特にT1部分は表土から厚さ120～130cmに及ぶ盛土があり、その下層に炭化物・木片・水辺の植物遺存体を含む旧水田耕作土が認められ、さらに褐灰色シルトやオリーブ灰粗砂の地山へと続いていた。地山までの深さは180cmに達した。T1の畑地部分は資材置場よりも30～40cm程、盛土により高くなっていることを考え合わせれば、畑地部分の地山確認面は20cm程度、西側の資材置場より低く傾斜しているといえる。

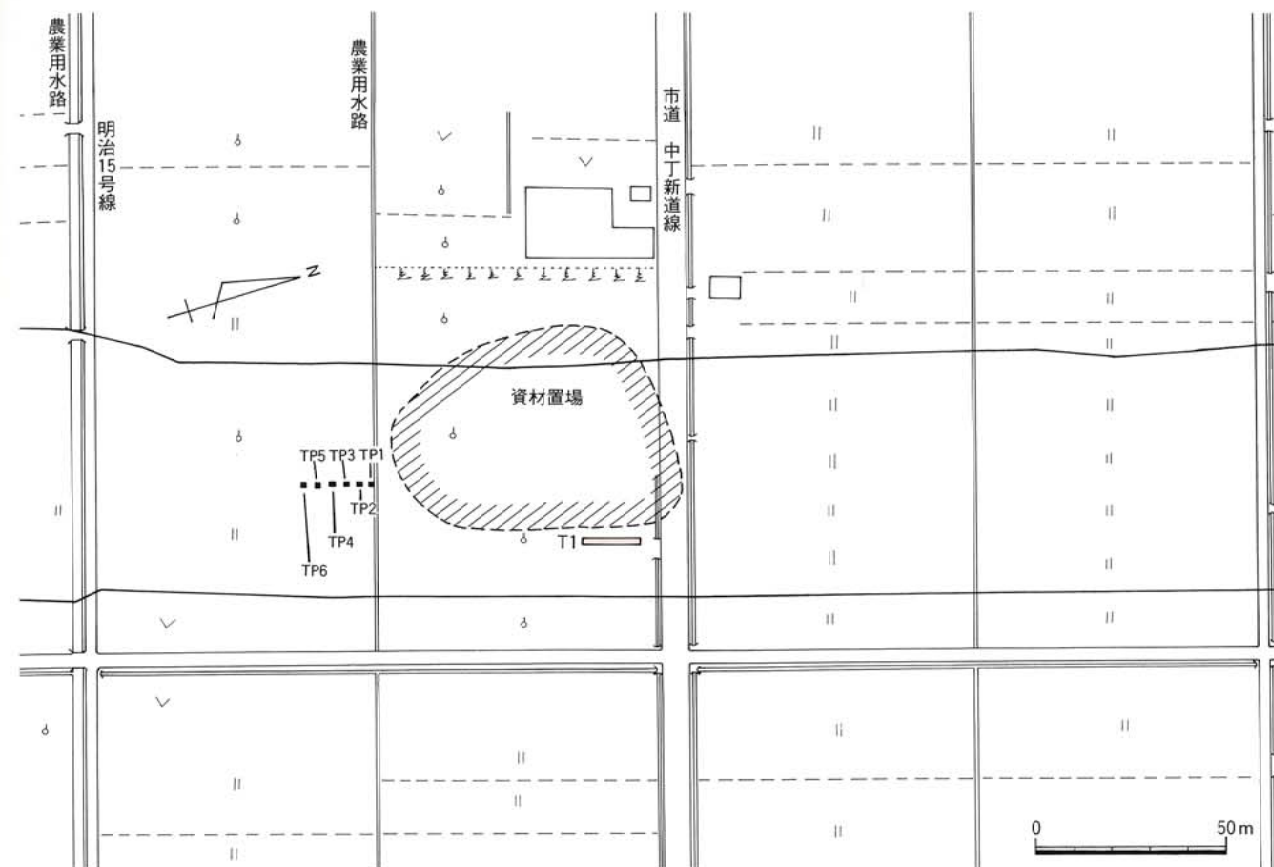
路線内の遺跡範囲は、遺構・遺物の確認されなかったT1・TP1～6部分は遺跡範囲から除外し、東西45m、南北75mの範囲で、面積が2,900㎡となり、当初推定した範囲より縮小された。また、今回調査できた部分がわずかであったため、調査対象区域については、平成11年度以降に追加の予備調査が必要となる。



三条ノ目遺跡全景（東から）



T1作業状況（南西から）



第14図 三条ノ目遺跡調査概要図 (S=1:2,000)



T1作業状況（北から）



T1土層断面（北東から）



TP4調査状況（西から）



T1土埋め戻し作業状況（南西から）

《天童地区》

13 影沢北遺跡〈平成2年度登録遺跡〉

- 所在地 山形県天童市大字高揃字松葉・影沢北（北緯38°19'50"・東経140°20'00"）
- 調査期日 平成10年7月27日～30日（5日間）
- 対象面積 2,550㎡ • 調査面積 576㎡
- 調査の概要

本遺跡は天童市高揃地区と山形市灰塚地区のほぼ中央に所在する。沖積地の微高地上に立地し、標高は97.5mを測る。地目は水田となっており、北側約500mには縄文時代後・晩期の遺跡である砂子田遺跡が存在する。

山形県文化財課による分布調査の結果、遺跡範囲が当初想定していた範囲より大幅に縮小することが判明した。調査は側道部分の表土除去も兼ねて実施され、2×20mのトレンチ4本を本線部分に東西方向で設定したほか、側道部分の全面表土除去を行った。その後、調査区内の面整理作業を実施しながら、遺構と遺物の所在を確認した後、各調査区ごとに平面図・写真撮影などの記録作業を行った。

その結果、調査区の中で南側は標高が低く、自然堤防の縁辺部であると見られる。地山層は黄褐色の砂層で、南側に行くに従い腐植植物を含むようになり、グライ化が進んでいる。東区南半部分やT3、4は急激に傾斜し、泥炭地となっていた。泥炭地の一部を重機で深掘したが、遺構・遺物などは確認できなかった。

また、明確な遺構は東区の北部から溝跡1条やピット2基、性格不明遺構1基の合計4つが検出されただけで非常に希薄である。どの遺構も、堆積土の性質から同一時期のものと見られる。性格不明遺構からは染付を含む陶磁器が数点出土しているため、近世の後半から近代までの時期が想定可能である。遺物も全体的に希薄で、遺物の総出土量は整理箱1箱にも満たない。ほとんどが近世・近代の陶磁器で、他には摩耗した赤焼土器が一片出土しただけである。

以上より、今回予備調査を実施した地域は遺構・遺物の内容から改めて調査拡張の必要性は認められない。



影沢北遺跡全景（東から）



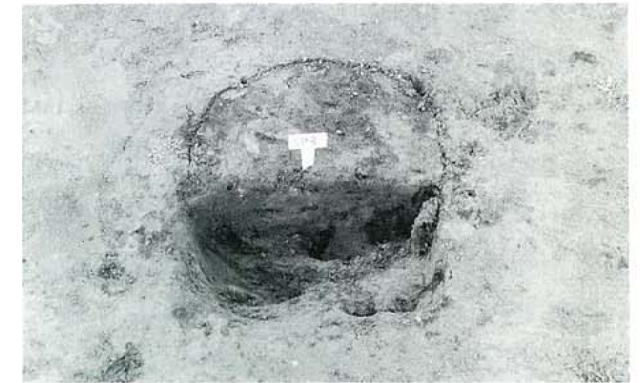
東区全景（南から）



第15図 影沢北遺跡調査概要図 (S = 1 : 2,000)



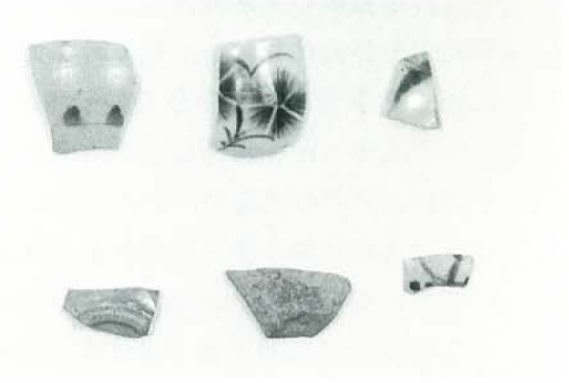
東区遺跡検出状況（北東から）



東区ピット半截状況（東から）



東区性格不明遺構半截状況（東から）



影沢北遺跡出土土器

IV 調査のまとめ

今回の予備調査は、東北中央自動車道相馬・尾花沢線（上山～東根間）建設事業の工事に先立って、緊急発掘調査の一環としてトレンチ調査を主体に実施したものである。これらの結果は、次年度以降の発掘調査に必要な経費積算、調査期間の算定などの基礎的な資料になるとともに、今後の事業計画などの調整に資されることになる。

調査は、山形南地区で石田遺跡外4箇所と、山形中央地区で志戸田縄遺跡外2箇所、山形北地区で服部遺跡外3箇所、天童地区で影沢北遺跡1箇所の13遺跡について実施した。なお山形中央地区の遺跡可能性地2と山形北地区の洪江遺跡・向河原遺跡は平成10年度中の用地買収が未解決のため、平成11年度に改めて予備調査を実施する予定である。

《山形南地区》

- 1 石田遺跡－近年のは場整備事業などにより削平されていると思われる所や、遺構確認面が認められない箇所が多く、礫が至る所で見受けられた。遺跡の範囲は南側ではやや拡大し、中央部では西方へ舌状に縮小した。また、遺跡の北側付近では遺構確認面から40cm下の層から縄文時代後期中葉の深鉢がまとまって確認され、文化層が2面ある可能性ももって、遺跡範囲は北方へやや伸びた。遺跡全体としての範囲は当初より縮小し、縄文、奈良・平安時代の包蔵地であることがわかった。
- 2 谷柏J遺跡－遺跡の範囲は県道側寄りやや縮小された。中央を流れる谷柏新堰が二股になる東側畑地の微高地において、近世の埋火葬遺構が確認された。西側は水田で南側から北側に向かってやや傾斜している。西側では遺構は確認できなかったが、遺跡の主体は標高がわずかに高い中央から西側にかけて分布すると思われる。遺物は古墳時代から近世までわたる。
- 3 萩原遺跡－遺跡は、基盤整備事業により全体的に削平され、所々で攪乱も受けている。市道をはさんで南側の微高地に古墳時代の竪穴住居跡が、北西から北東側の標高がやや下がる部分に奈良・平安時代の竪穴住居跡が確認され、集落跡と判明した。遺跡範囲は、北西部分で礫が多いために縮小され、北東部分で拡大した。路線内の遺跡面積は、全体としてわずかに拡大している。
- 4 百目鬼遺跡－遺跡範囲は、当初の推定範囲より西側と東側がわずかに縮小した。遺構は平安時代の竪穴住居跡、土坑、溝跡などが確認され、集落跡が判明した。調査の結果、近年のは場整備事業により全体的に削平されており、遺構・遺物の残存状態があまりよくない。
- 5 樋渡遺跡－遺跡範囲は主要地方道山形・自鷹線と富神川の間に広がるが、中央部分の農道を境に、南側の標高が高い水田部分と北側の低い畑地部分に分けられる。調査の結果、畑地部分は基盤整備事業、及びホップ畑造成時に削平されたためか、遺構・遺物は近現代のものが確認されただけで、遺跡範囲から除外になることがわかった。には含まれない。したがって遺跡範囲は当初予定範囲より大幅に縮小し、水田部分のみとなる。

《山形中央地区》

- 6 中道南遺跡－遺跡は、路線内全域にわたり地山面を削平して盛土を行っている跡が見られた。路線内からは河川跡以外の遺構は検出されず、縄文時代晩期の土器片や近世の陶磁器片などが少量出土したのみである。遺跡の主たる範囲は農業排水路北側、路線中央の東側外寄りと推定される。
- 7 志戸田縄遺跡－近年の基盤整備事業によって上面が削平されているため、表土層のすぐ下で遺構が確認できる。L字形の溝跡跡や土坑、河川跡などが確認された。遺物は河川跡から古墳時代の土師器がまとまって出土したことから、遺跡は同時代の集落跡であることが判明した。遺跡の範囲は、当初推定していた範囲より北側と東側に広がった。
- 8 熊ノ木遺跡－遺跡は、路線内全域にわたって、過去の県営は場整備事業の際に削平を受けている。遺物は陶磁器片など近年のものが少量出土するのみで、明確な遺構は柱穴や河川跡の他は検出されなかった。

《山形北・天童地区》

- 9 服部遺跡－路線内における遺跡の地目は中央部が畑地、周辺部が水田となっており、北側は休耕地で藤治屋敷遺跡と接している。基盤整備事業などで畑地から離れた東西の水田が攪乱を受けている。遺構は明確な竪穴住居跡は検出されなかったが、畑地を中心に土坑、溝跡、性格不明遺構などが確認された。遺物の出土状況により、遺跡はおおよそ北半分が中世、南半分が古墳～奈良・平安時代の集落跡となる。
- 10 藤治屋敷遺跡－調査は北側のビニールハウスを除いた部分で行った。遺跡の南東から西へ向かって河川が流れると考えられる。遺構は遺跡西側の水田で土坑、溝跡、柱穴、性格不明遺構などが確認されている。遺物の出土状況から平安時代から中世を中心とする遺跡であることがわかった。遺跡範囲は当初より西側と南側で大幅に拡大された。
- 11 馬洗場B遺跡－当初、遺跡範囲は畑地となっている微高地を中心に北側と南側の水田部分を含むものであったが、南側の水田部分では遺構、遺物ともに確認できず、遺跡範囲は縮小した。遺構は中央の微高地において竪穴住居跡や埋設土器、溝跡などが確認された。出土遺物などから古墳時代から奈良・平安時代の集落跡であることがわかった。
- 12 三条ノ目遺跡－市道中丁新道線の南側の資材置場と果樹園が当初の遺跡範囲であったが調査の結果、果樹園部分からは遺構、遺物とも検出されず、遺跡範囲は資材置場部分と果樹園の西縁の一部と推定される。県文化財課の結果から古墳時代の遺跡と思われるが、平成11年度になお追加の予備調査が必要となる。
- 13 影沢北遺跡－県文化財課の分布調査によって遺跡範囲は大幅に縮小していたが、今回の調査部分においても遺構、遺物とも非常に希薄であった。

この結果をもとに、今後は日本道路公団や山形県教育委員会と調整を図りながら、山形県埋蔵文化財センターでは平成11年度以降に中道南、熊ノ木、影沢北遺跡を除く石田遺跡外7遺跡について緊急発掘調査を順次進め、併せて山形中央地区と北地区の予備調査についても実施する予定である。

表一2 平成10年度予備調査結果一覧

遺跡名	所在地	種別	時代・時期	調査面積㎡	当初路線内面積	変更路線内面積	出土箱数	備考
(山形南地区)								
1 石田遺跡	山形市大字谷柏石田	集落跡	縄文・平安	584	6,500	4,700	1	
2 谷柏J遺跡	山形市大字谷柏	集落跡	古墳・奈良 平安・中世 近世	260	3,900	2,900	1	
3 萩原遺跡	山形市大字長谷堂字萩原	集落跡	古墳・奈良 平安	843	12,000	12,500	2	
4 百目鬼遺跡	山形市大字百目鬼	集落跡	奈良・平安 近世	680	6,200	4,600	2	
5 樋渡遺跡	山形市大字富神字樋渡	集落跡	奈良 平安	260	1,350	810	1	
(山形中央地区)								
6 中道南遺跡	山形市飯塚町字中道南	包蔵地	縄文 近世	530	13,400	0	3	
7 志戸田縄遺跡	山形市大字陣場字志戸田 縄	集落跡	古墳	568	3,500	5,250	1	
8 熊ノ木遺跡	山形市大字陣場新田字熊 ノ木	包蔵地	古墳・奈良 平安	470	4,100	0	1	
(山形北地区)								
9 服部遺跡	山形市大字中野字服部	集落跡	古墳・奈良 平安・中世	954	12,500	12,100	1	
10 藤治屋敷遺跡	山形市大字中野字藤治屋 敷	集落地	平安・中世 近世	555	5,800	14,700	2	
11 馬洗場B遺跡	山形市大字中野字馬洗場	集落地	古墳・奈良 平安	200	5,200	4,200	1	
12 三条ノ目遺跡	山形市大字渋江字三条	包蔵地	古墳	25	4,600	2,900	1	平成11年度に追加の 予備調査を予定
(天童地区)								
13 影沢北遺跡	天童市大字高揃字松葉	散布地	古墳・奈良 平安	576	13,800	0	2	
		(計)		6,505	92,850	64,660	19	

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第68集

東北中央自動車道相馬・尾花沢線関係
予備調査報告書(2)

1999年3月31日 発行

発行 財団法人 山形県埋蔵文化財センター
〒999-3161 山形県上市市弁天二丁目15番1号

電話 023-672-5301

印刷 (株)大風印刷